

沖縄県における魚類養殖の現況と課題

1. 現況について

本県における魚類養殖は昭和58年頃から始まったとされており、現在は28地区において養殖及び試験操業として小割生簀方式により実施されている。

魚種としてはマダイ、ハマフエフキ、アイゴ類等が主でそのほとんどの種苗は県栽培漁業センターや水産試験場から供給されている。また一部、天然の種苗を活用している例もある。

2. 生産及び販売について

養殖技術としては、一応定着しつつある反面、販売面においては地域間でバラツキがあり、大きな課題となっている。現状としては全体的な供給過剰感がある中で、売り急いでしまう例も見られる。逆に品切れを起こすところもあるので、これらの地区同士を結び付けうまく運用することにより、何とかこれらの不均衡を修正出来ないものかと考えている。もちろん抜本的な解決策は検討課題としてあげたい。参考までに表-1に平成2年と平成3年の生産量等を示した。

3. 県の平成4年種苗生産計画について

表-2は県の種苗供給状況及び平成4年の生産計画である。今期の生産計画尾数については各市町村(漁協等)への需要調査をふまえ設定されているが、おおむね前年並の計画尾数となっている。

4. 漁業権更新手続きについて

県漁政課においては、平成5年9月1日の漁業権一斉更新に向けての作業を始めております(各市町村及び漁業権者等への意向調査を実施中)。これには魚類養殖を行うのに必要な特定区画漁業権も含まれており、各地域においてしっかりと計画をたて対応する必要があります。

5. 今後の課題

本県において、魚類養殖が定着して行くための課題としては次のようなものが考えられる。

1. 場所の確保(適地の手続きの確保、漁場汚染対策、台風対策)
2. 種苗生産技術の早期開発による種苗の安定供給
3. 流通現況の把握及びその対策
4. 魚病に関する防疫体制等の強化

表一 養殖魚生産状況

期 間	マ ダ イ			ハマフエフキ			シモフリアイゴ			備 考
	生産量	生産額	単価	生産量	生産額	単価	生産量	生産額	単価	
	kg	円	円	kg	円	円	kg	円	円	
H 2.1 ~12月	44,582	57,859	1,298	1,950	2,259	1,158	48	48	1,000	
H 3.1 ~12月	125,294	156,252	1,247	10,109	13,316	1,317	4,965	4,740	955	

表二 種苗供給状況及び平成4年種苗生産計画

単位：尾

年 度	マ ダ イ 栽培センター	ハマフエフキ 栽培センター	シモフリアイゴ 水 試 本 場	コガネシマアジ 水 試 支 場	チンシラー 栽培センター	配布箇所数
S 63	23,000 3 漁協等 23 mm	16,300 3 漁協等 23 mm				3 箇所
H 1	385,000 6 漁協等 20 mm	27,000 1 漁協 22 mm				6 箇所
H 2	862,000 12 漁協等 23 mm	127,000 9 漁協等 22 mm	81,000 12 漁協等 30 mm	40,000 30 mm		15 箇所
H 3	803,000 17 漁協等 23 mm	83,000 10 漁協 22 mm	176,000 16 漁協等 30 mm	80,500 13 漁協等 20 mm	150,000 3 漁協等 20 mm	27 箇所
H 4 (計画)	800,000 20 mm (3月以降)	150,000 20 mm (6月以降)	100,000 30 mm (6月以降)		100,000 20 mm (5月以降)	未 定